第６回茂原市学校再編審議会　会議概要

１　日　　時　令和７年５月 23 日（金）　18 時 00 分～19 時 34 分

２　場　　所　茂原市役所　９階　901・902 会議室

３　出席委員　７名
中村会長、中田副会長、古作委員、澤本委員、内海委員、
千葉委員、山本委員

４　出席職員　10 名

教育長	富田　浩明
教育部長	佐久間　尉介
教育部次長（教育総務課長）	新木　和敏
学校教育課長	佐藤　千秋
学校教育課主幹	鵜澤　徹
教育総務課長補佐	江川　卓也
教育総務課学校再編推進室長	山田　晃義
教育総務課学校再編推進室	渡辺　竜太
教育総務課学校再編推進室	根本　亮子
教育総務課学校再編推進室	古市　利行

５　傍聴者　　０名

会議内容（進行：江川）

１　開会
茂原市学校再編審議会条例第６条第２項に基づき、出席委員は半数以上であり、会議は成立した。

２　会長あいさつ

３　議題
(1) 中学校区を基本として学校再編を進めるにあたって
(2) 学校再編において留意すべき事項について

条例第６条第１項の規定により会長が議長となり、議事を進行した。

（議　長）それでは、議題を進めてまいります。今日は学区の関係ということです。本日は、議題の（１）中学校区を基本として学校再編を進めるにあたってということで、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局）資料１－１をお手元にご用意ください。「中学校区を基本として学校再編を進めるにあたって」ということでございます。
はじめに、「１．現行の学校再編基本計画における通学区域（学区）」でございます。現行の基本計画には、通学区域、学区に関して、次のように記載しております。四角の枠の中でございますけれども、学校再編の基本方針では、学区の見

直しを含め、全市的な視点で再編を実施すると記載しています。また、学校規模ごとの基本的な方向性では、小学校では９～11 学級のところで、統廃合や学区の見直し等、適正規模に近づける方策を検討すると書いてあります。中学校の方では、６～８学級、それから４～５学級のところで、今後生徒数が減少する見込みであれば、統廃合や学区の見直し等を行うというふうに記載がされています。ここにありますように、現行の基本計画では、学校規模が適正規模を下回る場合には、統廃合や学区の見直し等を行うとしております。これは、学区を調整することによって、適正規模を維持していこうという考え方となります。これが、今の基本計画に書いてある学区の考え方になります。ただし、これまで審議していただいたとおり、適正規模というところは、今後は許容規模を採用していく方向で審議をしていただいておりますので、これはこのまま使うことはないと思いますけれども、今の基本計画ではこのような表記がされているというところになります。

そして、資料の下段のところに、「通学区域（学区）とは」ということで、通学区域とはどういうものなのかということを説明させていただいております。学校教育法施行令第５条では、市町村教育委員会は、その設置する小学校、中学校が２校以上ある場合、就学予定者が就学すべき小学校、中学校を指定することと定められています。このことから、茂原市教育委員会では、茂原市立小学校及び中学校通学区域に関する規則を定めまして、市内の小中学校の通学区域、以降は学区と表記いたしますが、これを定めています。学区については、法令上の定めはなく、道路や河川等の地理的状況、地域社会が作られてきた長い歴史的経緯等の地域の実態を踏まえて設定をしている状況になります。本市における学区を図に示すと、資料１－２のようになります。資料１－２はＡ３の横版のものになり、大まかに区切っておりますが、左側に小学校の通学区域を、右側に中学校の通学区域という形で、このような形で区切られているということになります。こちらは参考にご覧いただければと存じます。

資料１－１に戻りまして、２ページをご覧ください。「２．中学校区の枠組みで進める上での課題」でございます。第５回審議会において、学校再編の検討については、まちづくりとの関連、小中一貫教育の推進との関連から、中学校区の枠組みを基本とした地域協働によって進めていくことが望ましいとされました。しかしながら、これを進めるにあたっては、学区の編成に関する課題が存在しています。

これがどのようなことかと言いますと、まず、（１）小学校と中学校の学区編成についてです。本市では、１２の小学校から５の中学校へ進学する学区編成において、一部の小学校では、異なる中学校に分かれて進学するという状況があります。こちらに「小学校から中学校への進学の状況」ということで表でまとめておりますが、左側に５つの中学校を表記しておりまして、それぞれの中学校に進学する小学校を右側に表示しています。こちらを見ていただきますと、色を付けてあるところ、萩原小学校、東部小学校、茂原小学校が、それぞれ異なる中学校に分かれて進学するという状況が、今、ございます。萩原小学校につきましては東中学校と茂原中学校に、東部小学校につきましては東中学校と南中学校に、茂原小学校につきましては茂原中学校と南中学校に分かれて進学するという状況になっております。

次に、３ページをご覧ください。「異なる中学校に分かれて進学する小学校の状況」を個別にまとめてご説明しているものになります。

まず、①萩原小学校になります。萩原小学校の学区の中には、中学校の就学指定校は東中学校のところ、茂原中学校を選択できる区域というのが設定されています。下の地図を見ていただきますと、萩原小学校の学区をオレンジ色に塗ってお

りますが、その中の右下の四角の形をした地区が、東中学校と茂原中学校を選択できるという区域となっています。こちらは、もともと中学校までの通学距離を考えたときに、東中学校の方が近いということで、平成 23 年までは東中学校にしか行けないという状況になっておりました。しかしながら、保護者等からのご意見等もあったようで、平成 23 年４月に通学区域の規則を改正し、学校の選択制を導入して茂原中学校も選べるようにしたという経緯がございます。そして、上のところに表で卒業生の状況を書いてあります。令和５年度の卒業生の状況でございますけれども、萩原小学校の卒業生は 101 人のところ、東中学校に進学した生徒はおらず、100 人が茂原中学校、１人がその他の中学校に進学、これは転出等だと思われます。なお、この中学校を選択できる区域に住んでいた生徒は、実際には 13 人おりました。この 13 人全員が茂原中学校を選択しているという状況ということでございます。

次に、②東部小学校です。東部小学校の学区に居住している生徒は、東中学校と南中学校が就学指定校となっています。北部に住んでいる方は東中学校に進学し、南部に住んでいる方は南中学校に進学するというような形です。中学校区の境目は、概ね茂原警察署から東部小学校の前を通る道路で区切られているような形になっています。令和５年度の卒業生の状況を見てみますと、卒業児童数 90 人のところ、東中学校に 47 人、52 パーセント、南中学校に 38 人、42 パーセントということで、概ね半分ずつに分かれて進学する状況となっています。

次に、４ページをご覧ください。③茂原小学校です。茂原小学校の学区に居住している生徒は、茂原中学校と南中学校が就学指定校となっています。北部に住んでいる方は茂原中学校に進学し、南部に住んでいる方は南中学校に進学するということになっています。この中学校区の境は、概ね一宮川をもって区切られているという状況となっています。令和５年度の卒業生の状況ですと、卒業児童数 44 人のところ、茂原中学校に 32 人、73 パーセント、南中学校に 11 人、25 パーセントということで、概ね７：３くらいの割合で分かれて進学する状況となっています。

これは、実際にこういった状況になっているというご案内でございまして、これらの状況を考慮すべき視点として、下の枠の中にまとめております。まずは、「中学校への円滑な接続」です。近年では、子供たちが小学校から中学校に進学する際に、円滑に接続していくことが求められています。進学の際に、これまで一緒に過ごした友人と中学校が分かれるなど、人間関係が大きく変化することは、子供たちの心的負担の増加につながることが懸念されるものかと思います。いわゆる中一ギャップという言葉もございましたけれども、小学校から中学校に進学した際に、子供たちにとっては、学習内容、人間関係、学校生活、このような様々な面で変化が起こりますので、それに戸惑ったりすることがないように円滑に中学校に接続させていくことが大切となっています。

二つ目は、「小中一貫教育の推進」になります。本市では、小学校と中学校の９年間を連続した学びの時間と捉え、その期間で「どのような子供を育てたいのか」を中学校区ごとのまとまりの中で共有する、小中一貫教育を推進しています。子供たちが異なる中学校に分かれて進学する小学校では、一貫教育を行う中学校が複数になるため、一貫教育の推進に支障が生じることがあります。なお、現在、市内の小・中学校の教職員の方々の研修は、それぞれの中学校区の単位に分かれて実施しております。そういった面でも、小中一貫教育の一層の推進を図ろうと取り組んでいるところです。

そして、下の矢印のところですが、これらの状況から、中学校区の枠組みで学校再編を進めていくにあたっては、異なる中学校に分かれて進学する小学校の学区編成は、望ましい形ではなく、今後の課題であるというふうに考えております。

次に、５ページをご覧ください。（２）規模の大きい学校として、その課題について書いてございます。現代の学校教育では、少人数指導や習熟度別指導などの多様な学習形態をとったり、特別な支援を必要とする児童生徒に対応したりするために、通常教室以外の空き教室、これは多目的室などとして使われておりますけれども、こういったものが必要となっています。現在、一部の小学校では、学区内の宅地開発等によって、規模が大きくなっている学校があり、改修するなど工夫して余裕教室を確保するようにしております。実際にこの規模が大きい学校というのは、現在ですと東部小学校ですとか、萩原小学校がこれに当たってまいりますけれども、これらの学校では、今後、更に児童数が増加した場合には、余裕教室を確保するための方策というのも検討していく必要があります。また、その他の学校においても、今後、大規模な宅地開発等が行われることによって、同様の状況が生じる可能性があります。同じ市内の学校において、余裕教室を確保できないことで、学校間の教育格差が生じることは避けなければならないと考えております。
ついては、矢印のところですが、余裕教室が確保できない学校では、学習上の制約が生じる可能性があることから、その場合には「教室の増築」、増築するスペースがなければ「学区の検討」、これは学区の範囲を狭めることなどですが、このような対応が求められることになります。先ほど申し上げた、東部小学校や萩原小学校は、現時点では、まだその段階にはございませんけれども、今後の課題として捉えていく必要があると考えております。
つきましては、学区の状況について、学校再編の取組を進めるにあたっては、学区編成の課題についても、併せて検討していく必要があると考えています。
続きまして、６ページをご覧ください。それでは、課題について、どのように検討していくのかということですが、「３．通学区域（学区）を検討する際の進め方（案）」でございます。まず、（１）地域協働による検討です。学区については、それぞれの地域によって状況や課題が大きく異なっており、その内容も複雑になっています。これまでの審議会において、学校の小規模化への対応の検討は、地域協働の考え方を導入していくのが望ましいとされました。このことから、学区の検討にあたっても、多様な課題やニーズに対応することが必要であり、地域協働による十分な協議と理解の中で検討していくことが望ましいと考えております。
資料には記載しておりませんけれども、本市における、これまでの学区の変更というか、学区の見直しの過去の事例を調べてみましたところ、本市の人口が増加しているときに行われたような、早野中学校の新設、南中学校の移転、緑ケ丘小学校や西陵中学校の新設、これに伴う学区の変更というのは、新しい学校の設置に伴う通学区域の設定であったことから、比較的スムーズに進んだような形でした。一方で、それ以外の「学校規模を調整するような内容の学区変更」というのも実施されておりました。これは、平成８年に実施しておりましたけれども、対象の地区によっては、地域や保護者の理解を得ることができず、かなりの反発を受けたというような記録もありましたけれども、実施に至らなかったケースというのも実際にあったと確認しております。
また、他の自治体の事例ではありますが、これは令和に入ってからの話ですが、小規模化している隣接する３つの小学校があり、その自治体では統合だけでなく、学区の抜本的な変更を検討していましたが、通学の安全面など様々な理由から地域の理解が得られなかったということで、従来どおりの学校配置を維持していくことに落ち着いたというケースも伺っています。
このように、学区の変更につきましては、多様な課題やニーズに対応する必要があることから、地域協働によって関係者と十分に意思疎通をした中で進めていか

なければ、なかなか実現は難しいと考えられるものだと思います。
そして、資料の中段の（２）検討を行う際の留意事項です。学区の検討を行う際に留意すべき事項として考えられるものを挙げてみました。
まず、①児童生徒の通学条件の課題です。学区は、通学距離等を基本として、児童生徒の負担面や安全面に配慮し、道路や河川等を境としている例が多いことから、学区を変更した場合には、児童生徒の通学条件に新たな課題が生じる可能性があるため、十分な検討が必要となるかと思います。
次に、②地域コミュニティのつながりへの配慮です。学区の変更によって、自治会などの地域コミュニティの区域が複数の学校区に分かれることにより、地域コミュニティのつながりが分断されることがないように配慮する必要があると思います。
次に、③学区の弾力的な運用の検討です。もし学区を変更した場合には、児童生徒や保護者への影響に十分に配慮するために、一定期間、就学指定校と従前の学校を選択できるような、学区の弾力的な運用についての検討もしていく必要があると考えております。
次に、④学区を変更することによる小規模化への十分な留意になります。児童生徒数の推計では、すべての学校で児童生徒の減少が見込まれているという状況がございます。ですので、学校の小規模化の解消のみを目的とした学区の見直しをしてしまうと、学校規模の平準化を図ることはできると思われますが、長期的な視点で考えた場合には、複数の学校が小規模化してしまう懸念があることに十分な留意が必要だと考えています。
資料の説明は以上でございますけれども、この学区編成の課題につきましては、学校再編とやはり関連してまいりますので、次期基本計画の中で触れておきたいと考えております。先ほどご説明いたしましたように、これらの対応については、地域協働の中で検討を進めていくのはどうかという考え方と、地域協働で検討を進めることとした場合には、留意事項としてこちらに４点挙げておりますけれども、他にどのようなことが考えられるかというところについて、委員の皆様からご意見をお伺いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（議　長）ありがとうございました。ただいま資料１－１について説明があったわけですけれども、説明も膨大な量でしたので、少し切り離しながら、委員の皆様方からご意見の方を伺っていければと思います。まず、資料１－１の１ページ目ですが、これは今の学校再編基本計画の中にある通学区域の考え方ということで、今の計画でいくと適正規模を下回った場合には、学区の編成も含めて、併せて検討するというような書き方になっています。そして、もう１ページめくっていただきまして、それでは、現状茂原市の学区編成はどのようになっているのかという説明があったわけです。資料の３ページ目以降に、現状、１つの小学校から異なる中学校に進学している学校が３校ありますという説明がありました。まずこの部分について、現状について、少し意見を聞いて、例えば市教委の考え方を聞いてみたいみたいなものや、ご質問でも結構ですので、聞いていきたいと思います。いかがでしょうか。

（委員Ａ）この小学校３校ですかね。学区が分かれるというのは、一体いつ頃からこういう学区編成になってるんですか。

（事務局）これは、ほぼ当初からというところだと思いますけれども、仮に東部小学校で言いますと、東部小学校というのは、小学校の中では比較的新しい学校なんです。東部小学校ができたときに、中学校をどうするかというところなんですが、東部

小学校の地区はもともと茂原地区になりますので、地区だけで考えれば、茂原中なのかなというところもあるんですが、なかなか茂原中学校も規模が大きかったものですから、東中学校と南中学校にそれぞれ分けて、学区を設定したというようなことになろうかと思います。なので、いずれも、当初学校ができたときからということになります。

（委員Ａ）学校ができたときから。

（事務局）はい。

（委員Ａ）小学校ですね。

（事務局）小学校です。その後、若干の学区の移動はあったかと思いますが、大きな括りでいうと当初からというになります。

（委員Ａ）当初というと、もう何年ぐらいですか。

（事務局）東部小はちょうど 50 周年になります。萩原小が 60 周年です。

（委員Ａ）東部小が一番新しいのですね。

（事務局）設置されたのは一番新しいです。

（議　長）他に質問はありますか。

（議　長）それでは、先に進めてまいります。４ページ、ここからが肝になる部分かと思います。こういうふうに、１つの小学校から２つの中学校に進学しているという状況をどう考えるか。最近、やっぱり中１ギャップという問題が取り沙汰されて久しいですけれども、小学生が中学生になったときに、なかなか中学校の教室に馴染めないという中で、親しい友達と別れてしまうことが非常に子供たちの心理的負担になるのではということが一点。それからもうひとつは、茂原市の方針の中で、小中一貫ということを打ち出しているわけです。そうなると、１つの小学校からは１つの中学校に進学する方が、小中一貫教育を進めやすい。そういったことから、現状の学区は、望ましい形になっていない。こういう現状認識ですね。これは答申案に盛り込まれると思うんですけれども、こういう現状認識でよろしいかどうか。これについて、まずご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

（委員Ｂ）はい。１つ目は質問です。萩原小が保護者からの願いで選択できるようになったと伺いまして、東中に０人、茂原中に 100 人行ったという年があったんですけれども、例えば、東部小と茂原小に関しても選択制になっていて、この数字なんでしょうか。それとも、この２校に関しては、きちんと川や警察署の道路とかで分かれているのでしょうか。一人も不満に思わずに分かれて通っているのか教えてください。

（事務局）ご質問の学校を選択できるかどうかにつきましては、いま選択制があるのは、この萩原小学校のところのみになっておりまして、この東部小学校ですとか、茂原小学校につきましては、選択制ではなく、この線で引いたところで完全に分かれ

てしまっているというのが実態になります。

（議　長）萩原小については、そんなに問題にならない。自由選択を作ったので、大体がみんな茂原中を選択する。みんな揃って進学しましょうという形になっている。

（委員Ｂ）小中一貫といって、小学校と中学校は同じ目標や方針を持つのが望ましいということなんですけれども、例えば冨士見中学校は、いま豊田小と西小と二宮小、一時的には、緑ケ丘小学校も対象だったときがあったんですけれども、冨士見中学校もすごく特徴のある「冨士見魂」などの学校の方針を持っていますけれども、豊田小、西小、二宮小と、それぞれやっぱり地域では、独特の雰囲気を持って、それで、それぞれ全然違う町場の子供たちとか、農村の子供たちとかという感じで、中学校に上がっていきます。でも、やっぱり冨士見中に行けばすごく馴染んで、全然違う小学校時代を送ってきていますけれども、中学校になったら、それに染まっていくというような感じはします。ですので、一貫教育も考えながらも、小学校でそれぞれ特徴を持ってのびのび育ってきて、中学校でまとまってっていうことも悪くはないし、それもすごく活かされていると思っています。一貫教育のところに、少しそういう考えもいれていただければと思います。

（議　長）複数の小学校から１つの中学校に集まる場合についても、一貫教育について配慮を十分してもらいたいということかと思います。これは、中学校と各小学校の連携のための会議みたいなのをやりながら、進めているという解釈でよろしいんですかね。

（事務局）茂原市の小中一貫教育の推進委員会というのを立ち上げて、今年で３年目になります。その成果として、先ほどお話がありました研修会を中学校区で行い、小中一貫教育について、各学校区ごとに目標を持って取り組んでいる状況でございます。しかしながら、先ほどから出ているように、中には１つの小学校が２つの中学校に分かれてしまうという状況もございますので、そうしますと、茂原市としての姿、望むべき子供たちの姿という大きな幹はあるとしても、地域を生かしたというところになると、それぞれが違ったことを。違ったら色が出てくることもありますので、なかなかその小学校の中で、中学校が分かれることになると、どちらの色という部分まで細かく見ていくと、今の状況でよろしいかどうかというところは、その推進委員会の中でも話が出ているところでございます。以上です。

（委員Ｃ）あんまりよく分かっていないんですけれど。小中一貫校と再編と、茂原市としてはどちらを優先していくんですか。私自身、小中一貫校の方が進みやすいんじゃないかなと思ってるんですけれども。それは置いておくとして、小中一貫校でやりますと、小学校は 12 校ありますが、これは減らないんですよね。そうすると、各地域に１校が残る状態になるわけです。編成すると、12 校が 11 校になったり 10 校になったりしちゃいますから。地域として、学校がなくなるというのは非常に問題だし、寂しいように思う人もたくさん出てくると思うんです。だから、小中一貫校を優先してやって、それでうまくいかない場合は、再編になる。その辺の基本方針を入れてやったほうがいいんじゃないかなと思っていますが、いかがですか。

（議　長）ありがとうございます。今のご意見に対して、事務局お願いします。

（事務局）まず、茂原市の小中一貫教育については、例えば冨士見中学校は、豊田小学校、

西小学校、二宮小学校がぶら下がっている小学校という形になりますけれども、これはそれぞれ別々の場所にございます。その状況でもって、小中一貫教育というのを行っているという状況です。あとは、本納小学校と本納中学校は、物理的に同じ場所にあって、そこは施設一体型の小中一貫教育を行っており、１歩進んだというか、連携しやすい形になっています。ですので、小中一貫教育については、全地区で今後も進めてまいりますが、ゆくゆく子供たちが減ってきてしまったときに、学校の統廃合をどうするのかというのは、またその時の課題になるかと思いますが、それを今の本納小学校・中学校みたいに同じ場所にするのかとか、やっぱり市内の別々の場所で、中学校１校と小学校を１校にするのか２校にするのかというのは、またその時の検討になるのかなと思います。

（委員Ｃ）ということは、小中一貫校を優先して検討していくという考えで良いのですか。

（事務局）優先という考え方とはちょっと違うと思うんです。小中一貫教育自体は、茂原市全域で今現在も取り組んでいます。ですので、推し進めているという状況になっています。学校再編ということになりますと、前回までのお話の中で、例えば統合なり何なりというのは、地域に下ろして考えていただくというお話をいただいているかと思います。ですから、再編はまた別のところでお話が進んでいくのかなと。例えば、今現在、お話をさせてもらってます豊岡小学校と本納小学校について、もしお話がまとまるということであれば、小学校は１校減ることになります。また、他のところでもそういうお話が出てくる場合には、さらに小学校が減る。ですから、今現在の 12 校というのが変わっていくのかなという方向性も見えてくるかと思います。ただ、12 校のままということも、もちろんあります。ついては、どちらを優先してということではなくて、小中一貫教育という部分については、すでに今、推し進めている真っ最中であるということで、お考えいただければと思います。

（議　長）ありがとうございます。やはり１つの小学校の子供たちが、複数の中学校に進学している状況というのがあるということで、この辺について、Ｄ委員、保護者の視点からいかがですか。

（委員Ｄ）私の子供は本納中学校区でしたので、本納小と豊岡小がぶら下がっているという形になります。元々は新治小学校もくっついており、今は本納小と統合しました。中学校区に複数の小学校がありますが、他の地域では小学校が分かれてしまうという問題がありますので、これについて、逆に萩原小については選択制という形があると伺ったんですけれども、東部小と茂原小は、保護者からの意見は今まで教育委員会に対してないのかなということを伺いたいです。

（議　長）例えば、茂原小はほぼ３分の１と３分の２くらいで分かれますけど、南中ではなく茂原中を選択したいんだよというような要望は、これまであったことはあるんでしょうか。

（事務局）実際には、いまお話があったように、線で切られているのが大原則として、保護者にも周知はしているところでございます。しかしながら、実際には、本当は南中なんだけれども、茂原中学校に行きたいなんていうふうに希望されている方々も中にはいたと記憶していますし、実際に言ってきた方を私も知っています。しかしながら、原則として学区というものが存在するので、それで従っていただきたいというところでお話をしてるところです。

（議　長）現状、学区の制度があるのでということですね。要望はあるのかもしれないですね、同じ学校に行きたいという。

（委員Ｄ）意見として、東部小と茂原小をゆくゆくは選択制にするのも検討できると思いますが、審議会の方で決めていくのでしょうか。

（事務局）今回ご審議いただいていますが、いわゆる学校再編の審議会でありますので、この場の審議会で決めていく内容ではないと思います。ただし、今後もしそういった声が大きくあり、選択制も検討という話になったときには、また別の通学区域についての審議会で揉んでいく話なのかなと認識してます。

（議　長）おそらく、しばらくの間、自由学区的なものを導入してもらいたいとか、そういうようなことは地域協働の話し合いの中で出てくる可能性はあると思います。

（委員Ｅ）６ページの②地域コミュニティのつながりへの配慮ということで、実際の区域というのが多分あると思う。それは当然ありますけど。さっきの萩原小と茂原小学校の一宮川と警察の通りでは、自治会の区域も分断されてしまっているのか。その辺は分かりますか。

（事務局）東部小学校で言えば、これは東部台って自治会ひとつだったかと思うので、ということでありますと、これが分かれてしまっているという状況になっていると思います。私の記憶の中では、この東部台だけではなくて、他の小学校の学区の中でも、自治会が分かれてしまっているところがあります。

（委員Ｅ）それって何地区もあるんですか。

（事務局）具体的に調べたことがちょっとないんですけれども、高師のあたりが茂小と西小に分かれてるとか、あとは、墨田という地区があるんですが、そこが五郷小と西小に分かれていたような感じだったと思います。

（委員Ｅ）私は本納中学校区なので、本納中学校区はそういうことが全くない。自治会が真っ二つに分かれて、違う中学に通うってことは全くない。ですので、市内の他の地区は、多分そういうことが多くあったと思ったんで、ちょっとお伺いしました。

（議　長）いくつかはそういう分断されているところがあります。本納はないですね。

（委員Ａ）だとすると、小学校区の青少年育成茂原市民会議で分かれている自治会は、1 戸 100 円だったかと思いますが、どうやって納めているんですかね。

（事務局）申し訳ありません。ちょっとそこまでは私の方で把握しておりませんけれども、少し違う話になりますが、かつて聞いた話ですと、自治会長さんの立場からすると、やっぱり学区が分かれてしまうと、それぞれあっちに行ったりこっちに行ったりというのがあって大変だという話を聞いたことがあります。

（委員Ａ）答えは参考までに調べておいてください。実態としてどうなっているのか。

（事務局）分かりました。

（委員Ａ）それは自治会が長年にわたってどういう認識をされているのかというひとつの証でもあります。

（委員Ｅ）小学校の卒業式とか入学式、あと運動会にも招待されるんですね。自治会長。それが複数の学区に分かれていると、自治会長も大変なのかな。お祝い金などもありますので。

（委員Ｂ）また違う団体なんですけど、民生委員児童委員の協議会という大事なお役がありまして、私は主任児童委員という、主に 18 歳までの子供たちとその家庭の方達のつながりというか、いろいろ支援につなげるお手伝いをさせていただいているんですけれども、毎年、茂原中学校で連絡協議会というのを校長先生が開いてくださいます。その時は、もちろん茂原中学校に通っている中央地区という主に萩原小をメインに見ているグループと、北部地区という茂小を見ているグループと。あと豊田地区と、西部地区ということで、豊田小学校区と西小学校区の委員もそれに招かれるんです。これはやっぱり豊田学区というふうに区切られているんですけど、羽貫という地名だったかと思うんですが、たしか茂中と冨士見中がかなり入り組んでいるんです。そういうことで、豊田地区の中にも茂小に通っている方が、ちょうど接してるところの方たちだと思うんですけれども、います。くっきり綺麗に分かれているというよりは、いろいろな団体も地域の分け方によっては学区が被っていることがあって、その会議で、子供たちが漏れないように工夫をしてフォローをしている。民生委員だけでもこれをやっているので、他の色々な会議でもそうやって、瀬戸際に住んでる子供たちを、あちらの中学でも、こちらの中学でも、漏れないように見ているという現実がありますので、お伝えさせていただきます。

（議　長）ありがとうございます。ご意見として頂戴します。他はいかがですか。

（議　長）いろいろな難しい問題があると思いますけど、今の状況について望ましいかというふうに言われると、少し課題があるだろう。そういう認識でまとめさせていただいてよろしいでしょうか。合わせて、５ページ。ちょっとこの話をすると、また若干ややこしいんですけど。将来的に、教室に余裕がなくなってしまうような学校が生じる可能性もあるというようなことで、要は、今回の答申の中に、学校再編の取組と学区の編成の課題というものは、合わせて検討していく必要がありますというような文言でまとめたいと考えますが、いかがでしょうか。

≪反対の声なし≫

（議　長）なければ、最後の６ページですね。６ページの（１）ですね。学校再編の考え方自体は、行うとすれば、地域協働による地域との協議の中で進めていくという大きな方針が決定されておりますので、当然学区についても、そういった住民の皆様方のご意見を聞きながら進めたいということです。これについて、ご意見がある方いらっしゃいますか。

（委員Ａ）前回でしたかね。前回の資料の４ページだったかな。「地域協働（新たに導入）保護者・地域住民・教員関係者」というふうに言っているんですが、学区も含め

て、地域協働はすごく重たい問題。重たいというか、非常に重要なプロセスだということなんで、この基本計画以降、地域に関しては、例えば茂原市で言えば生活課だとか、市長部局なんかにも関連のあるところももちろんあるんだけれども、何か教育委員会でタクトを振って、地域協働の受け皿を、確固たるものを、姿を早く作る必要があるかな。そういう意味では、富田教育長さんが心の中で描いているようなコミュニティ・スクールだとか、そういうものをやっぱり推進して、形作っていくということが、基本計画の立案以降、非常に重要な作業じゃないかなというふうに思うんですが。いかがでしょうか。

（議　長）事務局でどなたか。たしかに、これまでもずっと受け皿をどうするのか、いったい誰がやるということがちょっと問題になってきましたけれども。

（教育長）実は私も先ほどまで、コミュニティ・スクールのオンラインの会議に参加して、色々な話を聞かせていただいてきたところです。コミュニティ・スクールの基本的な考え方としては、やっぱり学校を地元の方たちと一緒に考えていきましょうよということです。端的に言えば、地元の方が、学校に対しても意見を言える。教育委員会に対しても意見を言えるというのが、コミュニティ・スクールということです。今後、いま学校評議員会みたいなものでやっているようなところに、もう少し地元からの意見を吸い上げられる。また、市の教育行政についても説明できるというような関係を作り上げながらやっていく必要があるだろうと。それが協働の核になるだろうと。そうすると、やっぱりそのコーディネーター的なところが、これもＡ委員がよくご存知のように、地元で誰にお願いしたらよいのかという人材的なところになったときに、学校だけでは探しきれなくて、いま言った市長部局のほうに行って、どなたがいいですかねというような連携が生まれてくるのかなと考えています。だから、今年度揉んでいきますが、コーディネーター的な人をどうやって発掘するかというのを、いま学校長に話しているところであって、それは教育委員会の方も市長部局に情報を持っていきながら、調整していきたいと考えています。

（委員Ａ）市も教育委員会も、いま 65 歳まで働くんですよね。65 歳はまだ若いですよね。やっぱりこういった行政も知っている、学校も知っている。そして各学校には当然ＰＴＡだとか、部活動だとか、色々な役員で絡んだ人材がいらっしゃるわけなんで、そういう中から発掘することは可能だよね。本気を出してやれば、そういうコーディネーターはできるんですが、問題は、そのコーディネーターがボランティアなのか有償なのかというような、そういう整理も、市のほうで、あるいは教育委員会の方でお考えになった方がよろしいかと思います。

（議　長）ありがとうございました。今のは、これまでの協議というか、受け皿に対してどういうふうに整理していくかということの意見でした。これについては十分考えながらやっていただきたいと思います。
次に、学区の再編をしていくとした場合の、留意事項をこちらに４点挙げていただいております。先ほど地域コミュニティに関連したお話が出ておりましたが、④の、つまりＡ校が閉校になりそうだから、Ｂ校の学区をくっつけて、Ａ校を閉校にならないようにしていくという考え方は取らないということですね。それをやっていくと、全部の学校が、12 校すべてが小さな学校になってしまう。しかも、範囲も広くなってしまうというようなことが考えられる。要はそういう意味ですよね。

（事務局）左様です。

（議　長）他に何か盛り込んでおいたほうがいいような留意点等が、委員の皆様からあれば。これはよく考えていただいていると思いますけど。

（議　長）それでは、よろしいでしょうか。様々ご意見を頂戴いたしまして、大変難しい問題であると思いますので、慎重に検討していただければと思います。

≪特段の意見なし≫

（議　長）それでは、議題（１）を終わりまして、議題（２）学校再編において留意すべき事項について、今度は学区ではなくて学校再編ということで、留意すべき事項について事務局からご説明をお願いしたいと思います。

（事務局）それでは、引き続きお願いいたします。資料２－１をお手元にご用意ください。「学校再編において留意すべき事項について」という表題になっておりまして、これまでの審議会におきまして、次期基本計画に盛り込むべき内容について調査審議を行ってきました。具体的には、許容規模ですとか、地域協働で進めていくことや、先ほどありました学区の編成についてということで、話を進めてまいりましたけれども、これまでに審議した内容以外で、学校再編において留意すべき事項ついて、委員の皆様のお考えをお伺いしたいと思っております。参考といたしまして、下の枠の中と裏面の２ページのところに、現在の学校再編基本計画に記載されている内容を掲載しております。そして、網掛けをしてあるところは、これまでの審議会の中で審議に関連した内容です。ですので、それ以外の網掛けをしていない項目は、今回の審議会ではまだ審議していない、触れていない内容の部分になりますので、この辺りに着目していただくなど、参考にしていただきたいと思います。
併せまして、資料２－２をご覧いただきますと、こちらは、先に実施いたしましたアンケート調査になります。このアンケート調査の質問６というところで、学校統合を検討することになった場合に配慮してほしい点ということで、市民の方のお考えを伺っております。そちらを並べたものです。こちらも参考にしていただければと思います。
これ以外の項目でも構いませんので、委員の皆様が、学校再編において留意した方がよいと思うことについて、ご意見をここで挙げていただき、いただいたご意見については、採用できるものと採用できないものとございますので、整理をさせていただきまして、次期基本計画に盛り込むべきものは、盛り込んでいきたいとおもっております。ご意見の方いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（議　長）ありがとうございます。それでは、これまで審議してきた内容以外のところで、これはぜひ、学校再編を行うのであれば、留意してもらいたいというようなことについて、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

（委員Ａ）それでは私の方から、４点ほどまとめてお話をさせていただきます。できるだけ手短に、簡潔に申し上げますけれども、まず１点目はですね、先ほどの学区との兼ね合いも大いにあるんですが、小中一貫を目指す茂原市としては、やっぱり中

学校区で特色ある学校というものを打ち出していくべきだというふうに思っています。おそらく教育委員会の方でも、そういうことはお考えになっている。先ほどそういうようなお話も、ご答弁の中でありましたけれども。この特色ある学校がそれぞれ軌道に乗ってきたときに、やっぱり生徒さんはオール茂原の中で、自分の気に入った方向へ基本学区を飛び越えて、自由選択でそれぞれの学校に進学できるような制度があったらいいなというふうに思います。特にこの必要性があるのは、これから中学校の部活動が地域移行されていくと。しかし茂原市の実態としては、なかなかスポーツクラブとかなんかが、ありとあらゆる分野で整っているわけではないので、それぞれの中学校が役割分担をしながら、例えば、A中学校は野球部に重点を置くとか、B中学校は剣道に重点を置くとか、スポーツクラブでもそうですし、あるいは文化クラブでも、そういうことが行われていく。その方が、例えば、野球の試合でA・B・Cの3つの中学校が合同で出るのも、今はそういう時代になっておりますけれども、例えばオール茂原というふうに考えたときには、そういうやり方が一番良いんではないかなというふうに思っています。それが1点。
それから2点目は、学校の基本的な施設というのは、ひとつの定型が長年の歴史や実績を伴って今のものがあるんでしょうが、これからの時代を考えたときに、子供たちが、何か新しい学校、新しい施設のあり方というものに目覚めて、例えば希望を聞いたら色々な意見が出てくるのではないかなと思います。さりとて、限られた財源の中で、今ある学校を弄ってすぐに出来るというものでもないので、例えば学校再編に伴って、新たな施設を作り上げるタイミングのときに、新しいスタイルの学校を作っていくと。私が知っているのは、秦野ですね。「はたの学校」というふうなことで、学校再編の中で早急に出てくる地域、あるいは学校をモデルにして、今までの概念を超えた新しい学校のスタイルを計画して、以降、もしそういうものが良いんだとすれば、新たな学校再編があったときに、その基本計画に則って実際に学校を作り上げていくというようなことがあるんだそうです。いずれ、例えばファミリーマートやセブンイレブン等が、学校併設あるいは学校の中にできたとしたら、児童生徒ももちろん享受できるサービスはあるんだろうけれども。それ以外に文房具等も販売できるような、商業施設がちょこっとでもあったらいいな。それからもうひとつは、今のところ茂原市は商業施設、スーパーとかは、市内各所あるいは辺々部の町村を含めて、商圏が比較的できていますので、非常に便利な状況にはなっているんだけど、だんだん年を取ってくると私も運転できず、そこへ行けないということになります。学校だったら、子供たちも歩いていくような距離なので、もしかしたら年寄りも、そのくらい老人カーを引いて行ける。そういうサービスにも繋がっていく。それから、本納支所を新しいものにするときに、本納公民館と合築しましたよね。やっぱり色々な階層の人が行き交う、あるいは出入りする。セキュリティの問題ももちろんあるんですけども、これからの時代はそういう方向かなというふうに思っています。これが2点目です。
それから、統合によって、これは今の基本計画でも、「学校施設及び跡地の活用方法の検討」とか、「地域コミュニティや避難所についての配慮」というのがあるんですが、やっぱりこの地域協働でやるには、新しい学校をどうするかということで、不要になった学校施設をどうするんだということもセットで、十二分に地域のために活用できるような施設にしていく。それがすぐ市のほうで実現できるようなものかどうかは別として、やっぱりそれを地域の人たちで議論するということは非常に重要なことかなと思います。それが3点目。
4点目は、まだあんまり知られてないんですが、茂原市が総合計画を立案中です。私はそちらの審議会にも委員として参加させていただいているんですが、審議会

で、Well-being（ウェルビーイング）、現在、世界的潮流なんですけれども、住民が感じている主観的指標と茂原市の施設や施策から算出される客観的指標からなる地域幸福度指標を分析し、総合計画に取り入れることを検討しています。その上で、今後の総合計画では、良いところを伸ばす方向でいくのか。あるいはマイナスのところ、または乖離の激しいところを是正するような政策に打って出るのかということを行っています。そんなことがありまして、この総合計画の立案と合わせて、教育委員会は教育大綱ですかね。いわゆる総合計画の教育版みたいなものが、同じような年次で今年度立案されるということなので、やっぱりその辺を加味して、関連のあるものは整合をとっていったら良いのではないかな。それから学校再編の施策も、それとの整合をとるべきかなと思います。

（議　長）ありがとうございました。他にご意見ありますでしょうか。

（委員Ｂ）Ａ委員とちょっと違うようなことで、考え直したようなこともあったんですが、違うところになります。資料２－２を見てみますと、上から４つ目までは統合後の学校のことについては載っていなくて、通学路のこととか、新しい学校までの距離のことか、あとは当たり前ですけれども、生徒への心の影響とかも含めて、その対応とか、保護者や住民への十分な情報提供ということで、統合後の学校のことについて初めて出てくるのが５番で、丸い下の円を見ても、ほぼ 75 パーセントくらいが統合後の学校のことについての配慮のお願いではないんだなということを思いました。ですから、保護者は、ある程度市や学校に、統合後の学校のことに関しては任せているというか、安心しているというか。施設も新しくしますとか、バスも出しますとかって色々言っていただいた上で、現状が保たれればとか、現状今より少しでも良くなれば、それでＯＫというふうに感じていて、割合的には下の方になっているのかなと感じました。ですから、やっぱり通学上の安全のこと、先ほども川や大きな道路を区切りとして学区が分かれていたりしましたので、そういう大きな道路や川を渡ったりすることが起きる可能性がある子供さんたちが出てくるということで、そういう事故に繋がらないように、そこはバスで通わせるとか、配慮をしなければいけないと思いました。
また、学校が少なくなるということは、教員が減らされるんだなと思いました。１つの学校分の教員が減らされてしまう。いま茂原市だけではありませんが、先生方は本当に貴重で、財源のこともあるかと思いますけれども、人手としては本当に必要で、もっと先生たちがいてくれたらというような学校がたくさんあると感じています。ですから、統廃合した後に、統廃合した学校は特に教員の充実を検討していただければと思います。本当に色々な違うところから子供たちが集まって規模も大きくなりますし、先生方にとっても、通常の４月以上に必要になると想像できますので、教員の充実を検討していければと思います。
それから、６番目に出てくる「学童クラブの設置など地域子育て支援の充実」、これは学校再編に関しての、地域の子育て支援って何かなと思ったんですけれども、保護者からしたら、例えば、学童クラブに 100 パーセント入れるようしてほしい。今までは１つの学校だけの規模の学童だったものが、２つの学校になるわけですから、100 パーセント学童クラブに入れるように、準備をして、検討をして欲しいです。あとは無料化とか、働く環境に応じての不安を解消してもらいたいというのが、この地域の子育て支援なのかなというふうに感じました。通学のことと、教員のことと、学童に 100 パーセント入れるようにすること。それを検討内容に入れていくのはどうかなと思います。

（議　長）ありがとうございます。他にいかがでしょうか。それぞれのお立場でお願いいた

します。

（委員Ｄ）資料２－１の現行の基本計画に記載している内容は、少し言い回しを直す箇所があるかもしれないんですけれども、引き続き次期基本計画にも残していくのが良いのではないでしょうか。

（議　長）ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

（議　長）よろしいですかね。では私も、この再編にあたっての意見としては、被る部分もあるんですが、Ｄ委員からあった、この中に入っているものについては、引き続き新しいものにも載せてはどうかと。私も賛成でございますが、特に、やはり市内の通学路の安全確保。この問題については、統合があるなしに関わらず、教育委員会として十分取り組んでいただきたいなと思っております。２つ目といたしまして、財政的な厳しい状況もあるかと思いますけれども、統合校を含めまして、市内の学校施設の充実については、引き続き教育委員会として、十分取り組んでいただければと考えております。
それでは、以上でこの議題（２）について終わりたいと思います。委員の皆様方からいただいたご意見につきましては、答申に向けて、事務局で検討していただきまして、できるだけ取り組んでいただければと思います。

４　その他

（議　長）「４　その他」として、皆様方から何かございますでしょうか。

（議　長）それでは、以上で本日の議事はすべて終了しましたので、これで議長の任を解かせていただきます。事務局にお返しいたします。

（事務局）それでは、すみません私の方から、次回の審議会の日程等を申し上げたいと思います。次回は７回目となります。日時は、答申が近くなってきますので、今までの話をまとめさせていただく時間をとらせていただきたいので、８月５日の火曜日、時間は午後３時から、今度は早い時間の開催になりますが、ということで予定させていただきたいと思います。審議会もいよいよ終盤になってまいりまして、次回は、これまでに審議していただいた内容をまとめまして、答申の案という形で、皆様にお示しさせていただきたいと考えております。次回の審議会で内容がまとまりましたら、今回の一連の審議会はいったん終了となります。ただし、そこでもう一度修正が必要ということであれば、もう一度審議会を開催して、そこで審議を終結する形に持っていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

５　閉会

（司　会）それでは、中村会長、委員の皆様、本日は長時間にわたりご協議いただき、ありがとうございました。以上をもちまして、第６回茂原市学校再編審議会を終了いたします。お気をつけてお帰りください。